

〈報告〉

新・未来プロジェクトⅣ

新・未来プロジェクトⅣ 開催趣旨

漆 原 隆 浩

新・未来プロジェクトⅣ プログラムディレクター (東京都下水道局)

原稿受付 2014.12.24

EICA: 19(4) 39

新・未来プロジェクトは、EICAが主催する若手技術者・研究者のリーダーシップ人材養成プログラムである。本学会では2005年より「若手技術者のネットワークの形成」、「将来を担う人材の育成」を目的として、異業種や異文化の情報収集や参加者間のネットワーク形成や業界を支える人材の輩出を目標として活動してきた。

9期目に当たる新・未来プロジェクトⅣでは、参加者を送り出す組織にとって魅力を高めるために大きく2点の変更を行った。1点目は、組織や業界を支え、新たな価値を生み出し変革する豊かな発想と行動力のある人材を育成するため「リーダーシップ人材養成プログラム」の要素を強く打ち出したことである。いわば社会性を強調したMOTプログラムといえる。

もう1点は、プログラムの目標として「社会を変えるビジネスプラン」を作成することである。社会への提言ではなく、経済性、市場性も視野に入れ参加者が自ら実施するという意識を持って、社会課題をビジネスで解決しようという発想力と構想力を高めることを目的とした。参加者にとっては厳しいプログラムとなったが、一人も脱落することなくビジネスプランの立案の経験ができたことは、組織や業界を変革するリーダーシップが養われたと思う。

共通するテーマとして掲げたのは、「東京五輪後の社会を創るビジネスモデル」である。オリンピックは、国際的なスポーツの祭典である。その一方、前回の東京五輪では、新幹線に代表される社会インフラの整備が進むなど戦後復興を成し遂げた日本を世界に発信し、日本社会が大きく変わる起点となり社会転換の大きな機会ともなった。2020年東京五輪は、成熟した日本社会の未来のあり方を考える良い機会となっている。

グローバル化が進む水ビジネス、エネルギー技術の転換、人口減少を見据えた社会インフラの構築等、周囲を見渡せば今までの発想では到底解決ができない課題に囲まれている状況にある。このような状況を生み出した社会的構造変化の未来を読み解き、技術者・研究者が、狭義の環境ビジネスにとどまることなく、東京五輪後の豊かな社会を実現する革新的なビジネスモデルを創造することを目指していった。

参加者は、4月から10月までの半年間、5回のセミナーやフィールドワークなど集中したスケジュールの中、共同でビジネスプランの構築の作業を行った。その結果、4つのグループからビジネスプランが提出された。この実績を踏まえ10期の新・未来プロジェクトにも反映し交流を深めていく予定である。